

南浜中学校地区のまとめ
(南浜中・種差小・大久喜小・金浜小)

1. 概要

(1) 児童・生徒数(カッコ内は通常学級数)

	6 年前		現在		6 年後	
	児童生徒数	通常学級数	児童生徒数	通常学級数	児童生徒数	通常学級数
南浜中	100	4	73	3	60	3
種差小	93	6	68	6	41	4
大久喜小	94	6	66	6	56	6
金浜小	27	3	15	3	3	2

(2) 部活動

	運動部																文化部												
	陸上	器械体操	水泳	バレーボール	バスケットボール	サッカー	野球	ソフトボール	柔道	剣道	相撲	ソフトテニス	卓球	バドミントン	ハンドボール	新体操	アイスホッケー	スキー	スケート	その他	吹奏楽	合唱	バトン	コンピュータ	科学	美術	家庭	その他	
南浜中	男	○					○						○																
	女	○						○					○																
種差小							○男 ○女																						
大久喜小							○			○																			
金浜小													○男 ○女																

(「○」：部活動、「◎」：スポーツ少年団、愛好会等)

(3) 学区外通学

学校名	学区外	主な相手校	主な理由	備考
南浜中	流出			
	流入	鯨中	教育的配慮	
種差小	流出	鯨小 白銀南小 美保野小 青潮小	留守家庭 教育的配慮 その他特殊事情	
	流入	白鷗小	教育的配慮	
大久喜小	流出			
	流入	白銀南小 白鷗小	留守家庭	
金浜小	流出	城下小 旭ヶ丘小	留守家庭 兄弟姉妹	
	流入			

2. 寄せられた意見

※南中=南浜中、種小=種差小、大小=大久喜小、金小=金浜小

区分	意見照会		地域意見交換会			
	結果	記述意見(主なもの)	当日意見・会場アンケート(当)			
1.通学区域	見直すべき		当 当 ①南浜地域では、ほとんどの人が種差小学校は南浜中学校に来てほしいと思っている。 ②南浜地区は、中学校に関しては自由学区でよい。			
	南中	6/15				
	種小	3/17				
	大小	0/12				
	金小	2/8				
2.通学路	注意が必要		①美保野地区も一緒によい。(南中) ②鮫中学校と統合。(南中) ②白浜は鮫小学校に行ったほうがよい。(種小) ③学区に縛られることなく自由に学校を選べる方がよい。(金小)			
	南中	11/15				
	種小	9/17				
	大小	8/12				
	金小	3/8				
3.学校規模	過大:大きすぎる や大:やや大きい 適正:適正である や小:やや小さい 過小:小さすぎる	見直すべき		当 ①PTA 会費を全世帯が納めるなど、少人数になると高齢者の多い町内の負担が大きすぎる。		
		南中	7		6	2
		種小	8		8	1
		大小	7		5	
		金小	1		3	1
4.部活動	見直すべき		①や大) 児童数が少ない。(大小) ②や小) 部活動に支障が出ている。競い合いが少ない。(南中・種小・大小) ③過少) 保護者の行事手伝い等の負担が多い。(種小) ④過少) 児童の減少により、行事・部活動の存続が厳しい。(金小)			
	南中	6/15				
	種小	7/17				
	大小	1/12				
	金小	1/8				
5.適正配置 全般	①学区が広いと、安全確保のための通学方法を検討してほしい。(南中) ②地域的にみて少人数であっても何ら問題ない学校もたくさんある。(種小) ③学校行事・町内行事において町内、PTA、学校と密に連携がなされている。学校の存続を強く希望する。(金小)		当 当 ①地域を育てるという観点からも、子どもの多い少ないに関わらず学校が地域にあることが重要である。 ②現状どおり統廃合なしで続けていきたい。			
	6.その他		当 ①南浜地域は市街化調整区域で人口が抑えられてきた地域だということを認識してほしい。			

3. 論点の整理

学校	論点	備考	
南浜中	他	①生徒数の減少が進んでいる。 ②学区が海沿いに細長く広い。 ③教科の専門教員の確保が難しい。	・市内で4番目に生徒数が少ない中学校(73人)である。 ・いわゆる受験5教科の専門教員は1人ずつ確保されているが、美術・技術・家庭科の専門教員がいない。
	意	①中学校が分かれる。	・白浜町内は鮫中学校、それ以外は南浜中学校が指定校である。
	他	②複式が導入される。	・複式導入により平成23年度から5学級、平成25年度からは4学級となる。
大久喜小	他	①児童数が少ない。	・向こう6年間はおろうじて複式にならないものの、今後は1学年10人未満の学級が増えてくる。
金浜小	他	①複式校である。	・市内で4番目に児童数が少ない学校(15人)である。 ※平成24年度以降は10人以下、平成27年度には3人になる見込みである。
	意	②学校の存続について	・町内と学校の結びつきが強く、地域が学校の存続を強く希望している。 ・PTA会費を全世帯が納めるなど、少人数になると高齢者の多い町内の負担が大きすぎるという意見もある。

(意:寄せられた意見から導出したもの、他:その他、教育委員会で把握しているもの)